

日本の伝統文化茶の湯と岡山学芸館マナー講座

茶の湯（茶道）の歴史

日本にお茶を飲む風習が伝わったのは奈良時代。遣唐使や中国に留学していた僧たちによってもたらされました。室町時代になると一部の上級階級の間にも広がり、安土桃山時代に、千利休によって深められ、現代に受け継がれている日本の伝統文化になりました。茶道はお茶を点てることだけでなく茶室での礼儀作法を学んだり、お茶碗などの茶道具に触れたりしながらお茶やお菓子を楽めます。お茶室という静寂の世界で日本文化の美しさを体感します。

四規七則

四規七則（しきしちそく）は千利休が提唱した茶道に対する心構えを表した言葉の総称です。四規は「和敬清寂（わけいせいじゃく）」という禅の考え方がもとになっています。

「四規」とは

- ◇ 和…主人と客がお互いを尊重しあうこと
- ◇ 敬…すべての物事において調和を大切にすること
- ◇ 清…心を清らかに保つこと
- ◇ 寂…何事にも動じない心を持つこと

「七則」とは

- ◇ 相手のことを思いやって抹茶をふるまうこと
- ◇ 茶室に活ける花は本質を見極めて表現すること
- ◇ 相手が心地良く過ごせるように季節に適したもてなしを行うこと
- ◇ もてなしの準備は手早く的確に行うこと
- ◇ 心にゆとりを持つこと
- ◇ 不測の事態でも相手をもてなせるよう万全の準備をすること
- ◇ お互いを尊重し気を配ること



千利休

皆さんも茶道について調べてみましょう。興味深いことに出会うかもしれませんね。

岡山学芸館の和室での約束

岡山学芸館には和室（礼法室）があります。この和室で日本の伝統文化、茶の湯を体験しながら日本人としての作法を学びます。皆さんも礼法室に入る場合は次のことに注意してください。

- 制服は正装をお願いします
- 髪の毛の長い人は後ろに束ねます。耳の横から髪が垂れないように気をつけましょう
- 室内では「笑わない」「しゃべらない」「しびれが切れても我慢する」
- 始業に間に合うように早めに礼法室に集合しましょう

岡山学芸館マナー講座 令和4年5月

岡山学芸館では新入生全員が礼法室で日本人としての作法を学びます。
入室の仕方、お拝儀の仕方、お菓子のいただき方、お茶の点て方やいただき方など
茶の湯一連の作法です。皆さんがマナー講座を受講する際の参考にしてください。



入室・退室の際の礼の仕方

- ◇ 姿勢を正し、指導してくださる先生に大きな声で「失礼します」と言い丁寧に礼をして部屋の中に一步入ります。
- ◇ 「よろしく申し上げます」と相手の目を見、背筋をのばし挨拶をします。



畳の中央を歩き、方向を変えて自分の席につきます



タタミの縁から16目数えて、膝頭がその位置になるように座ります



心静かにお点前を拝見します



左手で茶碗を横から支えて、右手で茶筌を持ち、手首を使って前後に細かく動かします。



背中はまっすぐ伸ばしお茶を点てます



お茶が点てられたら、右手で茶碗を左の手のひらにのせます。右手で手前に2回まわし、3~4回に分けてお茶をいただきます

